

ありがとう高校野球

2018 年 4 月 5 日 廣瀬博

昨年(2017)の夏の高校野球で大きな失敗をした選手がいた。私はこれを見て咄嗟に何か書かずにはいられず「高校野球から学ぶ」という随筆を書いて本ホームページにアップしました(2017 年 8 月 14 日)。その内容は大きな失敗をした高校生の将来を心配し、その失敗が彼の将来に「プラス」になってほしいと願うものでした。

昨日今年(2018)の選抜高校野球が終わり、数々のドラマのあと大阪桐蔭高校が春連覇という偉業を達成しました。大阪桐蔭は優勝しましたが、圧倒的に強かったというわけではなく、試合の中盤までは同点かまたは負けていたケースが多く、終盤まで、失敗しないで、粘って勝つという形でした。総合的に「やはり大阪桐蔭は強い」という印象を持ちましたが、昨夏の大会で大失敗をしたチームであることはほとんど意識していませんでした。

今日(4 月 5 日)の新聞には大阪桐蔭の優勝した記事はもちろん大きく載っていますが、大谷が大リーグでホームランを打ち、ベーブルース以来の二刀流の選手が現れたとか、巨人の岡本がついにその才能を開花させたなどの話題の方が強く印象に残りました。

こんな時に小さな記事「時の人」が目にとまりました。この時の人は大阪桐蔭高校野球部キャプテン「中川拓也」でしたが、なんと昨年一塁のベースを踏み損ねて、間違いなく勝ったと思われた試合を失った原因となった、その選手でした。この記事には、昨年の失敗の試合の後、茫然自失の様子で、帰りのバスの中で責任を背負い込むように泣き続けたと書いてあります。これは私が予想したとおりでした。しかしながら彼は、その後、先輩のキャプテンなどをはじめ周りの人達から励まされて、今大会で見事キャプテンの重責を果たしたのでした。

私は、彼の実績が、自分の子供がやったときと同じような誇りを持つと同時に安心をしました。高校野球のもつ教育的側面はすごい事だと改めて思いました。そして、高校野球がなぜ人気が高いのかも知らされたように思います。そして、私は満足感に満ちた幸せな気持ちになりました。ありがとう「高校野球」

2018 年 4 月 5 日 ひたちなか市 廣瀬博